

# Social, Stratification, and, the, Community, with, Special, Implications, for, Education

著者	Freeman Richard
号	18
発行年	1975
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/14842">http://hdl.handle.net/10097/14842</a>

Richard Freeman

リチャード フリーマン

学位の種類 教 育 学 博 士

学位記番号 教 第 18 号

学位授与年月日 昭和51年 2月18日

学位授与の要件 学位規則第5条第2項該当

学位論文題目 Social Stratification and the Community with  
Special Implications for Education

論文審査委員 (主査)

教授 佐々木 徹 郎

教授 塚 本 哲 人

助教授 不破 和 彦

## 論 文 内 容 の 要 旨

1. 本論文は、とくに現代アメリカ社会学における社会階級の成層化に関する理論ならびに調査方法を検討して、アメリカ社会における階級構造の特色、階級構造のコミュニティにおける作用、そのヨーロッパとの比較、階級構造と関連した教育の意義を明らかにしようとしたものである。
2. 論文の構成は次の通りである。

### I. INTRODUCTION

A. Definitions of Social Stratification and Related Terms

B. Early Reasons Given for Stratification

### II. STRATIFICATION THEORY

A. Controversy Between the Functionalist and Anti-Functionalist  
Schools

1. Anthropological Interpretations: Durkheim and Werner.

2. Tumin's Disagreement with Davis and Moore.

3. The Disagreement Involving Parsons. Lockwood,  
and Dahrendorf.
4. Buckley's Challenge to Barber.
5. Two Other Participants in the Controversy:  
Merton and Rex.

B. Some Analyses of Social Stratification in the United States.

1. Chapin—Single Item Index.
2. Lynd—Single Item Index.
3. Warner—Multiple Item Index.
4. Centers—Multiple Item Index.
5. Hollingshead—Multiple Item Index.
6. Kahl—Multiple Item Index.
7. Comparisons, Contrasts, and Appraisal of the Six Social  
Stratification Analyses.
8. Freeman—Multiple Item Index.

III. GENERAL CHARACTERISTICS OF EACH CLASS.

A. Contrasts of the American with the European Stratification  
Systems.

B. Class Differences in the United States at the Present Time.

1. Family Background.
2. Occupation, Wealth, and Income.
3. Value Systems and Attitudes.
4. Expenditure of Income.
5. Residence and Neighborhood.
6. Marriage and Family Relationships.
7. Church Attendance.
8. Education and Cultural Life.
9. Voluntary Associations.
10. Cliques, Visiting, and Friendships.
11. Interclass Attitudes.

IV. STRATIFICATION WITHIN THE COMMUNITY

A. Interpretations of Community Structures and Relations.

1. Interpretations by European Sociologists.
  2. Interpretations by American Sociologists.
- B. Community Structure and Relations: America and Europe Compared.
1. The Extent of Local Power Structure in America and Europe.
  2. The School Systems in American and European Communities.
  3. The Extent of Voluntary Association Membership in American and European Communities.

## V. CONCLUSIONS

APPENDIX A — A Critical Review of the Functionalist and Anti-Functionalist Theories.

APPENDIX B — A Critical Review of Bergel's Theories Regarding the Values of the European Upper Classes and the Composition of the Upper and Lower Classes.

APPENDIX C — Additional Comments Concerning Analysis of Social Stratification in the United States.

APPENDIX D — Some Comments on Two Opposing Power Structure Theories.

3. 論文の内容はおおむね次のとおりである。

第1部と第2部は、社会階級、社会成層化についての理論の検討にあてられている。第1部では、社会成層化の用語の規定ならびにマルクス、ウエーバー、サムナー、ギデングス、ヴェブレンなどの古典的階級理論が紹介されその特色が示されている。第2部の前半では、とくに現在、アメリカ社会学界で盛んに論議されている問題、すなわち、社会において成層化は必然にて必要なものかどうかについての相対立する立場、機能主義者と非機能主義者の議論の要点がまとめられ非機能主義者に近い著者の立場が展開されている。第2部の後半では、社会成層化のあらわれとしての社会階級分析の方法が検討されている。Lynd, Chapin, Warner, Centers, Hollingshead, Kahlなどの技法を吟味して、著者は独自の階級分析のインデックスとして、家族的背景、富、職業、収入、住宅等を総合した多元的指標を提示する。

第3部は、アメリカ社会の階級構造の分析にあてられている。著者は階級を6つに分けその各々が教育、財産、収入、職業、価値体系、宗教行動、家族関係、居住様式、団体参加、交際、互の階級観においていかに相違しているのかを明らかにする。このさい、Lynd, Warner、

Hollingshead等の調査データを利用した。なお、この部分においては、ヨーロッパ大陸の階級構造の特色にもあらわれている。第4部は、アメリカと西ヨーロッパの地域社会において、階級構造がどのような意味をもっているかを、権力構造、教育、団体活動の3点から究明している。

結論において、著者は、アメリカと西ヨーロッパにおいて、社会成層化は消滅するかどうか、また、階級分化に伴う分裂的傾向の下に、社会の連帯意識をいかに保持するかという問題を究明する。前者については、ある程度の成層化の存在は予想されるとみる。したがって後者が重要な問題として浮び上がるが、著者は、その問題の解決の方途を教育による社会移動の促進と学校教育による階級間の社会的、文化的相違の減少を主張する。

### 論文審査結果の要旨

著者が、従来、多くの学者が独自の観点から進めてきた社会階級についての諸研究を、体系的、組織的にまとめてその各々の立場の特色や、見解の相違点を明らかにし、著者の見解を提示している点、今後の社会階級の成層化の研究の方向を示唆するものとして評価されよう。さらに著者は、社会階級分析の指標として、多元的指標であるフリーマン・インデックスを創案し、それによってアメリカ社会の階級構造の分析を行っているが、これは階級分析の新しい方法として注目される。すなわち、単一にせよ複数にせよ、同じ基準をもって、各階級間の区別をするという一般的傾向に対して、区別の基準は、階級のレベルによって違うという見解を展開した。この方法を利用して、著者は、今まで発表された社会階級についての重要な実証的研究成果をきわめて巧みに統合した。このような方法は、ともすれば、折衷主義的傾向を免かれ難いが、著者は、そこに一貫した論理を貫いている。これは、著者のもつ現実的体験と、歴史的知識の背景から可能となったと思われる。

著者の歴史的教養は、とくに西ヨーロッパとアメリカの階級構造の比較研究に生かされており、西ヨーロッパの階級のもつ価値体系の相違が、宗教的背景の下に生き生きと描写されている。

つぎに、この論文が地域社会における権力構造、教育、団体活動の点から、地域社会における階級構造の意義の検討を行ったことは、おおむね、正しいと評価されよう。たゞ惜むらくは、とくに権力構造の把握が、いわゆる「コミュニティ・パワー・ストラクチャ」の研究者と同一の立場に立っており、静態的分析に留まっている点である。すなわち、この論文の重点が、権力構造を支配する要因が経済的背景か、それとも広い住民の支持かという問題におかれているため、権力をめぐる政党や労働組合その他の圧力集団の作用、これと階級構造との関係の究明が充分行われていないうらみがある。また、とくにアメリカにおいて、また多くの西ヨーロッパの国々において問題となっている少数民族、人種等階級構造についての理論や分析方法のなかで、どのように位

置づけるかが必ずしも明確とはいえない。

最後に著者が、階級に分裂している社会における社会統合の作用を教育に求め、この立場から学校教育に対する提言を行っているが、これは著者のこの社会階級研究から生まれた社会的主張とみるべきである。これは、教育の社会学的研究者は、社会現象としての教育を、単に科学的に分析するだけでなく、その問題意識において、教育によって社会を進歩させたという信念をもつというウォード以来の伝統をよく反映するものであろう。

以上のようにみでくると、さらに深い検討を進めるべき点もみられるが、社会階級の研究に新しい方法を生み出し、社会における教育の役割を明らかにした点、この問題の究明に新しい知見を提供したものというべきである。

よって、教育学博士の学位を授与するのに適当であると認められる。